様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成　21　年　5　月　12　日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年度～平成 2009 年度
課題番号：18520215
研究課題名（和文）　エリザベス朝における戯曲の出版に関する研究

研究課題名（英文）　A Study on the Publication of Playbooks in Elizabethan England

研究代表者
太田 一昭（OTA KAZUAKI）
九州大学・大学院言語文化研究院・教授
研究者番号：　10123803

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：エリザベス朝、英国ルネサンス、演劇、出版、本文編纂、検閲、統制、テクスト

１．研究計画の概要

本研究の目的は、英国ルネサンス期の書籍出版の歴史的文脈のなかでシェイクスピア劇及び同時代の戯曲の出版状況を調査分析し、広義のエリザベス朝演劇（エリザベス一世からチャールズ一世時代までの演劇）の出版のありようを実証的に記述することである。併せて、本研究の調査で得られた知見に立脚して、シェイクスピアの初期版本（『リチャード二世』、『ヘンリー四世』、『ヘンリー五世』、『リア王』その他の四つ折本、及び第 1 二つ折本のテクスト）が演劇史的にいかなる意味をもつかを明らかにする。本研究は、筆者のもう一つの研究課題である英国ルネサンス期の演劇統制史研究と密接に関連している。最終的には、統制史研究の中に戯曲出版史の研究成果を組み込む予定である。

２．研究の進捗状況

（1）シェイクスピア劇とキリスト教のかかわりを論じた Jeffrey Knapp, *Shakespeare's Tribe* の書評を学会誌に寄稿し、『新編・シェイクスピア案内』の文献案内を執筆（共著）した。『案内』では、従来の同種の図書では手薄であった、版本や本文批評に関する解説を詳細に記述した。

（2）Debora Shuger, *Censorship and Cultural Sensibility*（2006）の書評を通して、近代初期イングランドの出版の検閲を論じた。検閲の大部分は教会関係者によって行われたが、戯曲本については 17 世紀初頭以降、主として祝典局長によって行われるようになった。祝典局長による演劇及び戯曲本の検閲は、決して弾圧的なものではなかった。劇上演・戯曲本出版の認可は祝典局長の「経済行為」であった。

（3）16～17 世紀イングランドにおける戯曲の出版に関する論考「エリザベス朝における戯曲本の『人気』を検証する」において、シェイクスピアの時代の戯曲本の出版は比較的マイナーな事業であったと論じた。

（4）シェイクスピアの『リア王』のテクスト編纂の問題に関する論考「『リア王』と 2 つのテクスト」を執筆した。Q（四つ折本）と F（二つ折り本）は趣の異なるテクストで

ある。Q は、登場人物の正邪善悪をくっきりと描き出していて、観客の情緒に訴えるような構成である。アクションは、善悪の対立を軸として展開する。登場人物を正邪善悪の二分法で裁断することを観客に求める。Q 版『リア王』は決してメロドラマ（感傷的通俗劇）ではないが、正邪善悪の区別がより明確で感傷に訴えるという意味ではメロドラマに傾斜する。両版の違いはあくまでも比較の問題である。しかし差異は微妙であるが局所的ではなく、まさしく「作品の全体的構成」にかかわっている。Q と F はいわばヴェクトルの異なるテクストである。Q と F は趣の異なるテクストであるから安易に合成すべきではない。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）筆者の別の研究課題である「英国ルネサンス演劇の統制に関する研究」と本研究の融合を目指しているために、戯曲本の出版の研究を当初の計画より狭めざるをえなくなったが、シェイクスピアのテクストの編纂と出版の問題については順調に進展している。

４．今後の研究の推進方策

（1）シェイクスピアの初期刊本のテクストの出版の経緯をエリザベス朝の演劇統制の文脈において再検証する。

（2）『リア王』の 2 つの古版本（第 1 四つ折本と第 1 二つ折本）の本文と当時の検閲制度との関係を再検証する。『リア王』の四つ折本（1608）と二つ折本（1623）のテクストには、かなり大きな相違がある。その相違の一部については古くから検閲者の関与を指摘する研究があったが、近年有力なシェイクスピア劇改訂説との関連においてこの問題が再浮上している。検閲にかかった（とされる）他の演劇テクストと比較しつつ、『リア王』のテクストと検閲のかかわりの有無を考察する。

（3）2 つの研究課題「エリザベス朝における戯曲の出版」と「英国ルネサンス演劇の統制」とを融合し、研究の集大成をはかる。

５．　代表的な研究成果

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①太田一昭、『リア王』と 2 つのテクスト、『言語科学』、査読無、44 号、2009 年、45-64 頁。

②太田一昭、エリザベス朝における戯曲本の「人気」を検証する、査読無、『言語科学』、43 号、2008 年、57-76 頁。

③ OTA, Kazuaki, “Jeffrey　Knap, Shakespeare’s Tribe: Church, Nation, ant Theater in Renaissance England”(review), 査読有, *Shakespeare Studies*, vol. 44, 2007, pp. 29-32.

〔学会発表〕（計 1 件）

①太田一昭、エリザベス朝の検閲について――書評にかえて、関西シェイクスピア研究会、招待発表、2007 年 12 月 16 日、千里阪急ホテル

〔図書〕（計 2 件）

①金子雄司、住本規子、太田一昭ほか 10 名共著、『新編・シェイクスピア案内』、研究社、2007 年、236 頁

②山田英二、太田一昭ほか 5 名共編著、『言葉の絆』、開拓社、2006 年、619 頁